

みんつど

第四号

編集 天地 成行

村岡鍼灸治療院

山口市湯田温泉5丁目6の12

発達障がい の 講演者

みんつど第四号のお

時間です。全国ではまだまだコ

ロナ収束のめどは完全ではありません。

そんな中で、取材を受けてくれたのは、映

画評論家「マニイ大橋」(現在、山口朝日放送

で土曜午前の「どき生テレビ」出演)で有名な大

橋広宣さん。ご自身も、多動症や計算障がいなどを

お持ちで講演活動もされています。天地との出会い

は数年前の同氏の講演を聴いてから。連絡交換をして、

二人でお会いした際に、大橋さんに向けてつくった

「出会い通信」を「自分の障がいについて書いて発

信する」といのは?」とアドバイスしていただ

きました。以降、みんつどに至ったわけでは

ば、きづきをくれた方があります。今回は大

橋広宣さんの人柄が少しでも読者に伝わ

ることを祈って、三面まで特集させ

ていただくことにしました。

では開始です。

二つの「顔」を持つ男

大橋広宣特集

映画評論家「マニイ」



あなたの一本それぞれ

小学5年で映画に没頭

人との出会いもたくさん

天地(以下、㊟) まず、読者にとっかかりがつかみやすい、映画の話からしましょう。まずどの作品に影響を受けましたか？また、子ども時分のご興味と今に至るまで一気におうかがいします。

大橋(以下、㊟) そうですね。まず小学校時代におじさんや父親とそれぞれ映画館に観に行った「ジョーズ」と「砂の器」が挙げられますね。前者は、世の中にこんなワクワクドキドキするものがあつたのかということ、後者は、殺人事件の裏側にあるハンセン氏病に関する根強かつた差別というのに大変すごい衝撃を受けた、という感じですよ。

子どものころは、漫画やアニメに夢中で、そのキャラクターをきっかけにして物語をつくったり、

新しいウルトラマンや仮面ライダーの主人公キャラクターを考えたりするのが得意でしたよ。漫画家になりたかつたですが、後に述べることになりませんが、いろいろあつて、計算が苦手なコマ割りなどができなかつたのであきらめました。あとあとになって、故佐々部清監督から「君は映画の伝道師となりたい」といわれ、この道を歩むことにしました。

㊟ すごく！ ちなみに今までで年間に観た最高本数と現在はいかがでしょうか？

㊟ 大学時代が年間三百のときがありましたね。昨年の劇場鑑賞は八十作品ですか。結構観てますね(笑)。

㊟ みんつど向けに順不同でベストテンを邦画と洋画でお願いするむちやぶりにしていいですか？

㊟ そうきましたか！ ダイジョブです。順不同ですが、邦画は「ゴジラ(1954)」 「太陽を盗んだ男」 「㊟の悲劇」 「時をかける少女」 「野獣死すべし」 「仁義なき戦い広島死闘篇」 「キャバレー日記」 「七人の侍」 「砂の器」 「銀河鉄道9

9」。

洋画部門は「ダイハード」 「ゴッドファーザーパートⅡ」 「チャンス」 「天国から来たチャンピオン」 「グッドモーニングバビヨン」 「ジョーズ」 「2001年宇宙の旅」 「タクシードライバー」 「ディアハンター」 「スターウォーズ帝国の逆襲」です。

㊟ ありがとうございます。さすがです。映画を通じて思うことや伝えたいことは何ですか？

㊟ 一人ひとりが違うように、「名作は人それぞれ」だと思います。人と人が許しあえる世界が、映画をみることで、なのではないでしょうか。私はメディアでも「映画を観てあなたの人生を変えましょう」というようなことをお話しするのは、こんな理由からです。

大橋広宣さんに講演やお仕事の問い合わせ

和田山企画 下松市末武中33-227

☎ (0833) 43-1973

レストハウス

岩国市川西4の5の156

たんぽぽ

TEL (0833) 439999

苦手多かった時代乗り越え

発達障がいを「武器」に

天地（以下、◎）では、

次到大橋さんが抱えていらつしやる生きづらさ、つまり発達障がいと言われる分野のお話をここではさせていただきます。

まず大橋さんはどのような症状をお持ちですか？

大橋（以下、◎） いわゆる「三〇三」（注意欠如・多動症）といわれるものと「二〇三」（私は計算分野が主）です。子どものころ遊びのルールが守れないとか、

片付けられない、人との約束が守れなかったりで苦労しました。でも、結論から言つて、両親からの深い愛情や家族の愛情に守られて、なんとかこ

なしているといった感じ

です。大学や新聞社に行つたこと、今の会社も運営

できているのも、こちら

の適当なサインを見逃さず反応してくださる方がおいでになるという事実ですよ。いわゆる人薬ですね。

◎ 教育について思うことはありますか？

▷ 児童・生徒も一律ではありません。計算ができれば電卓やパソコンの使用を認めていく。

それを周りが「やしじゃ（ずるい）」というのを理解させるのが本当の教育だと思います。

◎ 発達に関する不自由さで講演をなさつておられます。年間どのくらいのペースで行つてらつしやいますか？

▷ 年間で県内外で小中学校など四十〜六十か所、という感じです。悩みも

聴いているらつしやる方

で多種多様と感じます。

◎ そういった中で大切にされていることつておありでしょうか？

▷ 自分のできないことを馬鹿にしないこと（天地の拡大解釈では、理解できないことも理解しようと心がけていらつしやると受け止めました）ですね。

◎ あとはご自分もお父さんとして子どもさんをどう受け止めてらつしやいますか？

▷ 実は最初は正直、恐怖でした。じゃれてきても

第二号で読者の？にこたえます

◎ スタッフエッセイで「妄想や幻聴で快」になるのはなぜでしょうか？具体的にはどんな感じなのでしょう？

◎ 「快」についてですね。ご質問ありがとうございます。私のエピソードをお話します。

ある日、突然妄想で気分が高まって、「女の子に声をかけよう」という思いがあふれたことがある。デパートで思い立ちました。

すると、「ガンバレヨー！！」という幻聴が聞こえました。気分はハイのまま、誰に声をかけようかとワクワクドキドキ。結局は、その夜に友人とカラオケボックスに行き、女性メンバーで来ていた別グループと合流することができて、ナンパ大成功。若かりし日の思い出です。（金光光雄）

◎ ミスターエックスのコーナーにて、なぜ断薬や減薬をしたくなるのでしょうか教えてください。

◎ 「断薬、減薬」についてですね。ありがとうございます。これは天地の私見です。心を病むものにとつて薬は時に重荷です。体がいうことをきかなくなったり、頭の回転が鈍ったり、活舌が悪くなったりする薬もあります。たまに自分が機械のようにされているのでは？と思うこともしばしば。そういうときに止めたくなったり、減らしてみようと思うのではないかと感じます。（天地）

コロナウイルスと闘う
医療関係者の皆様へ
心より感謝申し上げます

株式会社
ウエブ制作
crouton

出版

〒742-0417
岩国市周東町下久原221-1
Tel.0827 (81) 1551
<https://crouton.co.jp>

あらずじ

団塊ジュニア世代の青春ストーリー。高校の同級生の仲良し三人組（たかし、とおる、あゆむ）には卒業間近に立てた将来の目標があった。それは、過疎問題で悩む地域に医療、農業、機械などそれぞれの分野をもちこんで「理想のムラ」をつくること。それぞれにばらばらに生きてその夢も忘れたころに、たかしの会社が倒産し、東京から帰郷。とおるが精神科医になっていた病院にかかることによって急展開する。大阪の機械会社のあゆむも酒が原因でクビになり帰郷。三人で瀬戸内海の無医村島で減農薬ハーブ米とブルーベリーを栽培してブランド化に成功、最終的には通販会社に専属買取契約を勝ち取り、会社の資金援助を受けて植物工場を建てイチゴ栽培にのりだし島の活性化起爆剤にしていく。

新連載小説「ベリーベリーナイス」始めます

◇

「タリタリタリタリ、タタンタタンタタン♪ おいらのムラにはく嫁が来ねえ」

B高校のESSの放課後の部室。三人しかいない部室でとおるのギターにあわせて、たかしとあゆむも続いて歌いだす。決して一九九〇年代当時の流行歌ではなかったが、フアンのみこそ知る過疎に悩むムラの話をつづった歌を三人で歌い続けた。英

語の会であるESSも担任の教諭もやる気はなく、ほぼ自主練状態といったお粗末な部活であったため、中心人物のたかしとおるとあゆむは日々、謎の活動をしていた。それが歌を通しての、過疎に悩むムラの「研究」であったというわけだ。

「とおるはギターがうまいよな。俺にもおしえてくれよ」
あゆむが忌憚なく笑う。

「これは、お前みたいなぶきつちよなやつには不向きだよ。たかしには合いそうだけだな」とおるがこたえる。

「そんなことより、俺たちもう三年生だろ？ それぞれ進路はあるだろうけど、いつか過疎のムラにみんなが集まって日本で珍しい事例をつくらうぜ」
たかしがいうと、
「そうだね。俺は医学、あゆむは機械。たかしは

過疎問題の農学か。ちよーうどいいんじゃないか？ みんな40歳か50で独身だったら考えられるよな」
とおるが本気なトーンでいう。

「さーて、どうなってるかねえみんな」とあゆむはのんきだ。
ジェットコースターのような人生が三人を待ち構えているとは思えない平成五年の春間近のことだった。（随時掲載）

編集後記

感無量

空気感が素敵だった、今回の「大橋特集」で、大橋広宣さんと数年ぶりに再会。とても感動的なものでした。どこか、同志のような、崇拜できる先輩である。自分と折り合いながら立派に仕事をなさって進んでおられる。今回の特集では、みんなの限界を感じたので、次号でもみなさんに伝えておいてはという部分は、お伝えしていきたいと思っています。

実は、今回取材にあたつて、レコーダーを持参し、二時間音声録音させていただいた。現場で確認したらとれていなかったと誤認してしまい、「ああどうしよう」と思ったが、音量をゼロに途中でしてしまっただけできちんととれていたの、数日経って、紙面原稿ができてから聞き直すと、まだまだみなさんにお伝えできることがある、と確信しました。というわけで次号もお楽しみに！

宇部のウェブ会議に参加しました

四月二十九日、午前十一時から、ウェブ会議システム「Zoom（ズーム）」にて、「引きこもり当事者会」が開かれた。主催

は宇部市のNPO法人「ふらっとコミュニティ」。今回が初めての試みといえます。理事長の山口大学大学院医学系研究科教授の

山根俊恵さんの発案で急遽決まった。私、天地も周南市の自宅パソコンから参加した。

参加者は山根さんほか